

沼城小学校児童が間伐・木工等の「森の学校」を実施しました！

令和6年10月31日（木）、周南市ふれあいの森（同市須々万本郷）において、同市立沼城小学校5年生児童41名を対象に「森の学校」を実施しました。

この取組は、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の重要性などについて理解を深めてもらうため、林業研究グループ「徳山グリーンサークル」（会長：松原近志、会員14名）が実施したものです。

当日、児童は、小学校から「ふれあいの森」まで徒歩で約40分かけて移動し、二班に分かれて、間伐・木工の二つの体験を交互に行いました。

一つ目の間伐体験では、林研会員がチェーンソーを用いて間伐木を伐採する様子を見学し、その後、ノコギリを使って、枝払いや丸太切りを体験しました。伐採前には樹高当てクイズを行い、児童からは15m～50mを超えるなど様々な意見が寄せられましたが、見事に的中させた児童もありました。また、枝払い・丸太切りの体験では、大小二つのノコギリを上手に使いこなす児童もあり、皆さん歓声を上げながら熱心に取り組んでいました。

二つ目の木工体験では、森林ボランティアグループ「ふれあいの森なんでも工房」の協力を得て、CDラック（ミニ本立て）を作成しました。児童は、普段使うことのない道具（金槌、釘、キリ）を手に、試行錯誤しながらも上手に完成させていました。

この日は、これまでの陽気が一変して気温も下がり、時折冷たく強い風が吹いていましたが、児童は、森林の中での体験で木の香りを満喫しながら、心も体も温まる有意義な時間を過ごしました。



頑張れ、あともう少し！



上手に出来たかな！